

はしか発生“0”継続中

— 県民のはしか抗体保有状況について —

「はしか」は感染力がきわめて強く、しばしば重症化することから注意の必要な感染症です。

沖縄県は、この病気に対する県民の免疫状態を把握するため、毎年、同意が得られた一部の県民の血液検査を行い、はしかウイルスに対する抗体保有状況を調べています。過去6年間(2006-2011)で調べた、県民のはしかウイルスに対する年齢群ごとの抗体保有状況を図1に示しました。1歳児(第1期)のはしかワクチン接種後の2~3歳の抗体保有率は、94~100%と高く維持されています。第2期のワクチン接種前後の4~9歳の年齢群においても90~100%と高く維持されています。

しかし、2006~2008年において10~14歳、15~19歳、20~29歳の世代に抗体陽性者が減少していました。この理由の一つとして、これらの年齢群においては、当時まだワクチンの2回接種が導入されておらず1回接種のみであったため、免疫状態が不十分であったことが挙げられます。2006~2008年には、10代、20代の世代ではしかが流行しましたが、このことが流行の要因の一つとして考えられています。

この流行の中心となった10代への対策として、2008年4月から5年間の時限措置として中学1年生(第3期)と高校3年生(第4期)相当年齢の者に2回目のはしかおよび風疹の定期予防接種が導入されています。

(国立感染症研究所ホームページ
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles/221-infectious-diseases/disease-based/ma/measles/569-cpn09.html>)

この結果、2010年と2011年はその効果があらわれ、全年齢群ではほぼ95%以上の高い抗体保有率を維持していることがわかります。しかし、この結果は、ごく一部の県民を検査したものであり、県全体でみたワクチン接種率は、目標の95%には未だ達しておらず、まだ安心することはできません。

本県で実施しているはしか全数把握サーベイランスによると、2010年から2012年5月現在まで、2年以上連続ではしか患者発生ゼロを達成し、現在

も継続中です。しかし、これを維持していくためには、ワクチン接種率を95%以上まで向上させることが重要です。

日本を含むWHO(世界保健機構)西太平洋地域では、2012年(今年)をはしか排除の目標年としています。前述のとおり、現在県内のはしか発生はゼロですが、はしか排除が認定されるためには、WHOの示したいくつかの要件を達成しなければなりません。その一つに、ワクチン2回接種率95%があります。

はしか発生のない現在こそ、県内からはしかを排除するチャンスです。定期予防接種の対象者の皆様、ワクチン接種を確実に受けましょう。

(国立感染症研究所 感染症情報センターホームページ「麻疹排除に向けた進捗状況の評価-WHO」

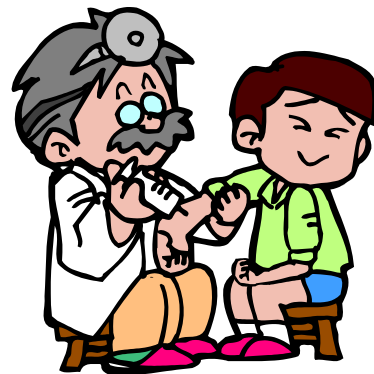
<http://idsc.nih.gov/iasr/32/372/dj3722.html>)

※日本のはしか定期予防接種スケジュール※

2006年3月31日まで生後12~90カ月齢未満の1回接種でしたが、法改正により、2006年6月2日より1歳児(第1期)と小学校入学前1年間の者(第2期)の2回接種法が始まりました。

(国立感染症研究所ホームページ「予防接種に関する通知等」

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/vaccine-j/503-infectious-diseases/vaccine/vaccine/guidelines/548-2005reg.html>)



【衛生科学班】

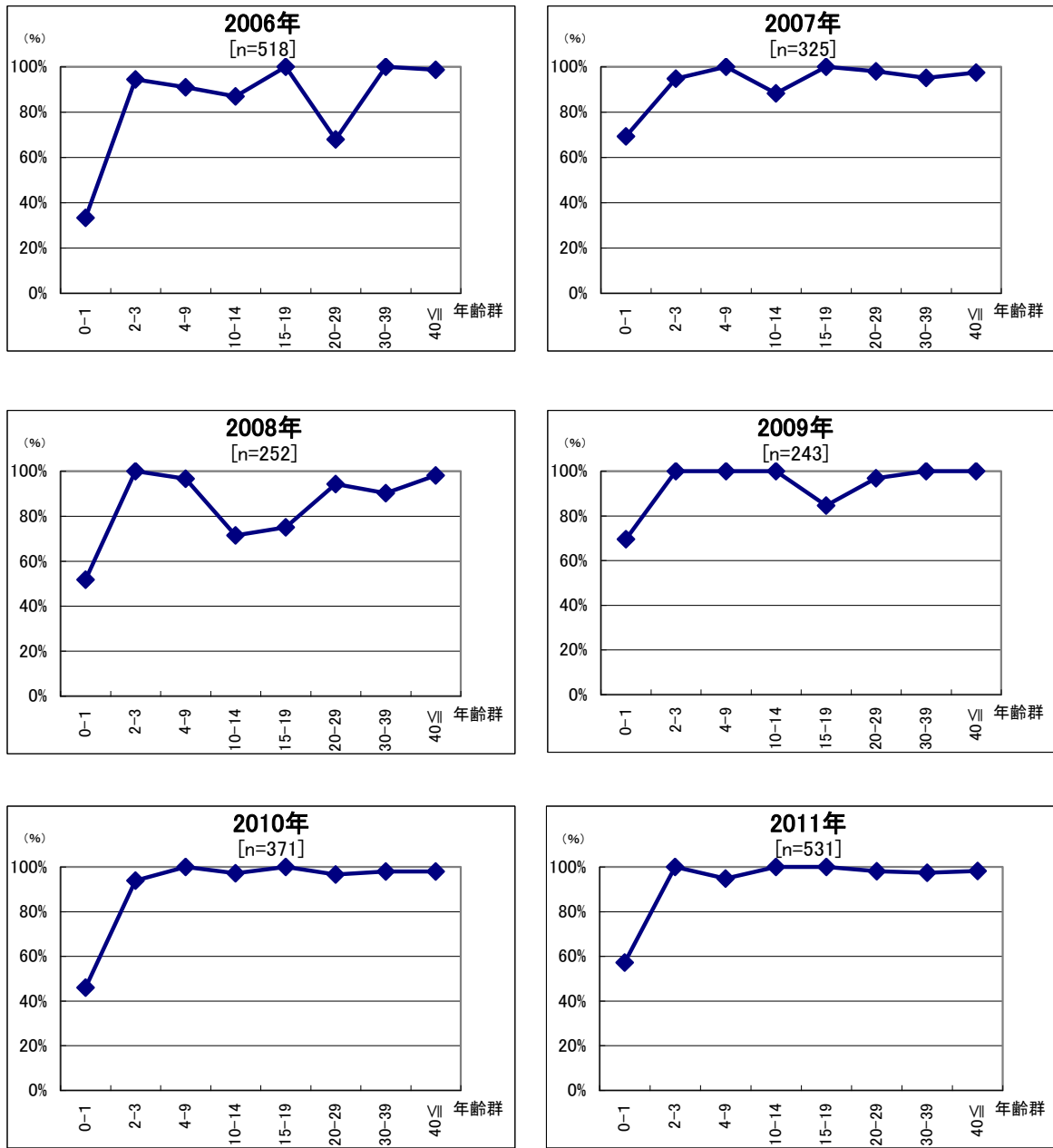


図1. 年齢群別麻疹抗体陽性率(2006～2011年)

※PA法(抗体の有無を調べる検査法のひとつ)